



## 2017 年度事業報告書

2017 年 12 月

特定非営利活動法人 さくら並木ネットワーク

2017 年度の当団体は宮城・岩手・福島の東日本大震災の被災地域に約 500 本の桜を植樹することができました。当団体が発足(2011 年)してから続いている大津波で犠牲となられた住民の皆様を弔う慰霊の植樹(植樹場所は主に慰霊碑や墓地や神社など地域コミュニティの中心場所)も継続してありましたが、近年被災地域の住環境の変化が急速に進みつつあり(仮設・みなし仮設から高台(集団)移転地へ)、そんな移転地のあらたなまちづくりやコミュニティづくりとしての植樹要請が増加傾向にあります。2017 年度春植樹は約 7 割が高台(集団)移転地の皆様からの植樹要請となり、今後もさらに増えることが予想される一年となりました。そんな高台(集団)移転地住民の皆様への植樹要請の意図は地域により様々でありましたが、総じて多くなったと感じたのは日本人が感情移入しやすい桜を地域コミュニティの中心部にみんなで植樹し、その桜を将来地域再生の象徴としたい(コミュニティ再生)。またいつかその桜と一緒に花見をしたい(コミュニティ形成)という大津波(もしくは福島原発事故)で傷ついた自地域復活の「おもい」や「誓い」のように思いました。

そこで全国の多くの支援者やボランティアの皆様への応援を背中に受けつつ東日本大震災の被災地域の皆様のために 2011 年度から桜植樹事業を中心とした支援活動を続けてきた当団体は、近年当団体に寄せられる植樹要請で顕著になってきた大津波(もしくは福島原発事故)で壊れてしまった地域コミュニティを再構築したいという被災地域の皆様の「おもい」や「誓い」をもっとお手伝いしその気持ちに寄り添っていきたく考えました。そのためには被災三県沿岸部により近い場所にこれまで以上の強固な現地活動拠点設立の必要性を感じ、2017 年 7 月に今まで当団体が植樹事業を展開してきた福島県南相馬市～岩手県の間地点に当たる宮城県仙台市若林区にさくら並木宮城拠点(被災地域活動拠点)を開設いたしました。また被災地域の皆様とともに意義のある植樹会をより多く開催するため、そして被災地域や支援者、ボランティアの皆様とともに心をつなげて植樹した大切な桜のメンテナンス作業をより円滑に実行していくためには業務のスピード化と被災地域への桜植樹材料やメンテナンス資材運搬増が不可欠と判断し、8 月末に今まで使用していた 1.5 トン平トラックを売却し 2 トンロング平トラックにバージョンアップを図りました。その効果は確実に現れつつあり 11 月に全国のボランティアの皆様とともに 2018 年春植樹予定の宮城県石巻市牡鹿半島小網倉浜高台移転地の土壌改良作業では(牡鹿半島などの一部地域の高台移転地では土壌が岩板状になっているところもあり、植樹会当

日だけでは高齢化が加速している地域の皆様の力では植樹作業をすることが困難となりますので、あらかじめの土壌改良作業を当団体では行っております)、2017年度春までの同じ規模の植樹会準備より約三分の一ほどに時間短縮を図ることができました。

またこれまで東北地方では少ない現地スタッフとボランティアで桜植樹事業を中心とした被災地支援活動を行ってきましたが、今後は現地有給スタッフをさらに採用し(現時点では募集中)、今まで以上に被災地域の皆様の心の声や願いが聞き取れるよう、さくら並木ネットワーク宮城拠点のさらなる被災地域の情報収集能力とヒアリング力の向上に努めてまいりたいと思います。



## 1. 桜植樹事業

当団体の主要事業です。

主に近年急増している①高台(集団)移転地植樹事業、②津波到達地(福島原発事故エリア)及び現地再建者植樹事業、被災地域の幼稚園(保育園)や学校の植樹となる③子ども体験植樹事業、被災地域の老人福祉施設などの植樹となる④高齢者生きがい植樹事業、被災地域市民団体と当団体が共催(もしくは後援)して植樹する⑤地域イベント型植樹事業に分けられます。

当団体の植樹事業の特徴は被災地域の皆様の東日本大震災によって傷ついた心情、各地で異なる地域事情や環境をよく考慮しながら寄り添いの心を持ち、あくまで被災地域(町内会・自治会・施設・地域団体など)と当団体の共催(もしくは後援)植樹会という形になるよう心がけております。そして当団体(+支援者やボランティアの皆様)は被災地域の皆様が「桜を自地域に自らの手によって植樹する」お手伝いというスタンスに徹することが地域の皆様が「この桜は私達みんなで植えた大切な桜」だという意識(愛着)につながり、そんな愛着ある桜が将来地域コミュニティの象徴や中心となって機能してくれるように意識しながら桜植樹事業を実施しております。

## ① 高台(集団)移転地植樹事業



2017年度春植樹(2~4月)は2016年度よりさらに植樹要請が増え約7割が高台(集団)移転地植樹事業となりました。移転地内のコミュニティができたばかりのところやコミュニティ形成がままならないところも多いですので、移転地住民の皆様が植樹会に気軽に明るく参加しやすい雰囲気づくりを心がけ、「みんなで植えた私達の桜」と愛着が持てるようにしています。また植樹会で一緒に作業した当団体の全国の支援者やボランティアの皆様との友情が長く続くよう餅つき会やイベントをした植樹会もありました。

2017年度の春植樹(2~4月)は住民の皆様が集まりやすい土日に被災三県の高台(集団)移転地にて計25回ほど実施しております。

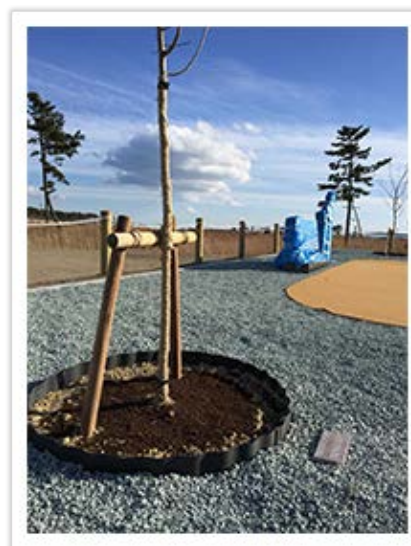
実施場所 宮城県石巻市鮎川浜清崎高台移転地、石巻市荻浜地区高台移転地、石巻市さくら町(渡波地区集団移転地)など

## ② 津波到達地(福島原発事故エリア)及び現地再建者植樹事業

津波が到達した地域(福島原発事故エリア)で開催される植樹事業です。また震災以前に住んでいた地域に帰還した住民(現地再建者)の皆様のための植樹となり、地域コミュニティで大事にされている神社や墓地、公園などが植樹地となることが多い植樹事業となります。東日本大震災以降過疎化・高齢化が進行している地域がほとんどとなりますので、この植樹事業の植樹会も高台(集団)移転地植樹会と同じように住民の皆様が明るく参加しやすい雰囲気づくりを心がけています。

ただ今年度の宮城県山元町山元町の社会福祉法人静和会慰霊碑は植樹をあらかじめ済ませておき、献花式に現地スタッフが当団体を代表して参列し、ご遺族の皆様とともに静和会施設内で津波で亡くなられた方達のご冥福をお祈りしたこともありました。この植樹事業に分類されると思われる植樹は2017年度春(2~4月)は5回ほど実施しております。

実施場所 宮城県亘理町鳥屋崎神社、宮城県山元町静和会慰霊碑など



### ③ 子ども体験植樹事業



東日本大震災の大津波により多大な津波犠牲者が出てしまった被災地域では子どもは地域の大切な宝であり未来の象徴となっています。当団体ではそんな地域の宝である子ども達に桜植樹体験をさせ、「思い出づくり」や成長する桜とともに「地域を愛する心」を育ててほしいと願い、当団体発足からこの子ども体験植樹事業を積極的に推進しております。2017年春植

樹では宮城県石巻市メロン保育園、石巻市アリス保育園、東松島市野蒜幼稚園、石巻市さくら町渡波中学校と計4回実施いたしました。

### ④ 高齢者生きがい植樹事業

東日本大震災以前から過疎化・高齢化傾向にあった東北沿岸部は、大震災の大津波によりさらに過疎化・高齢化が進行してしまいました。当団体ではそんな東北沿岸部に存在する老人福祉施設などのご高齢の入居者や利用者の皆様に「春に花咲く未来」を楽しみにして生きがいをもていただきたいと考え、この高齢者生きがい植樹事業も当団体発足から積極的に推進しております。植樹作業はご高齢の入居者(利用者)の皆様と一緒にとはならないですが、老人福祉施設の職員などとともにご高齢の入居者(利用者)の皆様の心身の健康と長寿を願いながら行います。2017年春(2~4月)は宮城県石巻市清心苑(老人ホーム)と東松島市すみちゃんの家(宅老所)の計2回実施いたしました。



### ⑤ 地域イベント型植樹事業



東日本大震災の被災地域では住民自らが「地域の活性化」や「観光地化」を目指し市民団体や地域団体を起し頑張っている方達があります。当団体ではそういう住民の皆様の「自分の地域は自らの力で何とかしたい」という強い意思を尊重し、そんな市民団体や地域団体の皆様とは当団体は共催(もしくは後援)という形で植樹

会を開催するようにしています。2017年2月から福島原発事故の影響で住民が10分の1ほどに減少してしまった福島県南相馬市小高地区を盛り立てていきたいと日々奮闘している市民団体「おだか千本桜プロジェクト」の後援事業を開始。今後複数年続く予定のおだか千本桜プロジェクト植樹会には当団体はそんな形で関わっていきたいと考えております。この植樹事業に分類される植樹会は2017年春(2~4月)に計5回ほど実施いたしました。

**実施場所** 福島県南相馬市「おだか千本桜プロジェクト」植樹会、岩手県山田町「山田町復興さくらの丘」植樹会など

## 2、桜のメンテナンス事業

平均気温が低い東北地方の気候は桜が順調に育つためには様々なメンテナンス(草刈り、追肥、支柱替え等)をしなければ成長がかなり鈍化してしまいます。また三陸沿岸部の植樹した桜は鹿などの獣害に遭うことが多く継続的な経過観察が必要になります。

また当団体が発足当初から被災三県(宮城・岩手・福島)で植樹した桜は2017年春が終了した時点で4600本を超え、年月を経るごとにこのメンテナンスの必要性を強く感じるようになりました。地域住民の皆様と共同で、また極端な過疎化・高齢化が進み桜のメンテナンスの担い手がなくなってしまった地域などでは当団体が支援者やボランティアの皆様とともにメンテナンス会を実施する場合があります。2017年の夏は雨が多かったため例年に比べ桜のメンテナンスが思うように進みませんでした。今まで植樹した地域で約40回ほど実施いたしました。



## 3、花見会事業



2011年に発足し2012年春から被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸部で植樹事業を展開している当団体ですが、初期に植樹した桜の一部はかなり大きくなり被災地域のあらたな喜びや癒しとなって機能している桜や、花をつけ始めた桜を囲み自発的に花見会をする地域や高台(集団)移転地も年々増加しており、現地スタッフがそんな花見会に呼ばれたりしてそれが当団体の何よりの活動の励みになっております。

また当団体はそんな被災地域の皆様と桜と一緒に植樹した支援者やボランティアの皆

様との友情を仲介し、植樹した桜を中心とした心温かい交流が永続的なものになるよう尽力していきたいと思えます。2017年春はオーガビッツ・プロジェクト様の基金により植樹会をした被災地域とオーガビッツ・プロジェクト、そして当団体との合同花見会が実施されました。花見のシーズンは当団体の植樹シーズンとぶつかるためこの花見会事業は現行体制では難しかった面がありますが、さくら並木宮城拠点の強化により今後は植樹事業終了後の春の花見会事業にも力点をおいて実施体制を整えていければと考えております。

#### 4、被災地域イベント事業



当団体は東日本大震災で被災された地域の皆様を少しでも励まし元気になっていただくために、不定期ですが地域イベントを開催しています。

2017年10月1日には当団体の支援者であるオーガビッツ・プロジェクト様とベガルタ仙台様のご厚意により2016年春に植樹した福島県新地町のサッカー少年団の子たち達を招き、昨年に続き二回目の「オーガビッツさくら並木プロジェクト」マッチ観戦を実施し、新地町の子ども達に笑顔のプレゼントをすることができました。

また2017年度春に植樹した宮城県東松島市の宅老所すみちゃんの家に関連施設はまなすの里企画の地域の高齢者を招いて開催されたお茶会の中で、仙台市在住のミュージックベルグループ cara\*cara の皆様の力をお借りし演奏会を実施することができました。この地域イベントもさくら並木宮城拠点の強化により不定期から定期的に行うことができるよう尽力していきたいと思えます。

#### 5、チューリップの球根植栽会



毎年11月に岐阜種苗様からチューリップの球根(平均5000球)をご支援していただいている当団体は、11月下旬～12月上旬に植樹に関わりのあった被災地域の皆様とともに毎年5か所ほどでチューリップの球根植栽会を開催しています。2017年度は2018年春に植樹予定である宮城県石巻市にっこりサンパーク高台移転地にて住民の皆様とともに

餅つき会を絡めたイベントとして実施する予定です(実施日程12月3日)。

## 6、東日本大震災の風化防止活動

当団体では全国的に東日本大震災の風化がかなり進んでいると感じておりますが、東北の復興への道は長く険しいものとも考えております。当団体は本部が都心部にある利点を生かし、全国各地で講演やラジオ出演などによって東日本大震災の風化防止に努めております。

また当団体の支援者の皆様とともに東日本大震災の風化防止活動としてイベントやコンサートなどの企画や開催をしております。2017年度は東京都世田谷区で当団体の桜大使である普天間かおりさんが出演した東日本大震災復興支援チャリティーコンサート「さくら並木の道しるべ」など計10回ほど実施しております。

